

日本科学者会議第25回総合学術研究集会のだいたいのまとめ（暫定案）

2024. 12. 8日

1. テーマ

第 25 回総合学術研究集会 平和で豊かな地球を子や孫に伝えるために —市民として科学者として今、私たちにできること—

2024 年 11 月 23 日（土）～12 月 8 日（日）

オンライン開催

2. 企画内容

（1）全体企画

●開会式

13：00～13：10 あいさつ（松田正久・25 総学実行委員長）

基調講演（座長：石井 潔・静岡支部）

13：15～14：30（講演：60 分、質疑：15 分）

長谷川眞理子（日本芸術文化振興会理事長、総合研究大学院大学前学長）：人類の進化史と現代社会—現代社会は発展したが、そこには負の側面もある—

●全体集会

科学者運動としての学際研究と市民科学—社会課題の解決と JSA の活性化の同時達成へ

—（座長：中塚 武・愛知支部）

中塚 武（名古屋大学）：「JSA 学際研究・市民科学発展プログラム」が目指すもの

畑 明郎（元大阪市立大学）：これまでの JSA における市民との連携の歴史—公害問題、とくに
イタイイタイ病を中心に—

中村征樹（大阪大学）：シチズンサイエンスの可能性と課題

●閉会式

12 月 8 日（日）（13 時～）

13：00～13：15 25 総学のまとめ（松田正久・25 総学実行委員長）

（2）分科会

7 種類 26 分科会

A 戦争のない平和な時代を拓く

【A 1】平和問題分科会

設置責任者：亀山 統一（平和問題研究委員会）、大倉 信彦（沖縄支部）

【A 2】九条改憲の動向の多角的検討

設置責任者：浜田 盛久（九条科学者の会）

【A 3】米日のグローバルパートナーシップの構築と世界の戦争に抗する平和の理論と運動を語ろう

開催日時：2024 年 12 月 1 日（日） 15:45--18:15

B 地球環境の危機的状況の克服、原発問題の解決、防災・減災、災害復興

【B 1】PFAS（有機フッ素化合物）汚染を考える

設置責任者：畑 明郎（滋賀支部）

【B 2】気候危機に立ち向かうー自然エネルギーと省エネの社会に向けて

設置責任者：歌川 学（産業技術総合研究所）、佐川清隆（東京大学）、河野 仁（大阪支部）

【B 3】脱原発への課題と展望

設置責任者：山本 雅彦（原研研委員長、福井支部）、山本 富士夫（原研研副委員長、福井支部）

【B 4】地域社会から考える能登半島地震復興

設置責任者：小野 一（福井支部）

【B 5】リニア中央新幹線問題の検討と運動・経験交流（part 8）

設置責任者：長田 好弘・松永 光司（東京支部武蔵野通研分会）、橋本 良仁（東京支部高尾分会）

【B 6】風力発電の課題を考える。

設置責任者：草島 進一（山形支部）

C 人間らしい労働、暮らしを守る経済、地域社会の再生

【C 1】群馬県に居住する外国人が抱える諸問題ー多文化共生社会・移民社会の実現可能性

設置責任者：藤井 正希（群馬大学）、永田 瞬（高崎経済大学）

【C 2】新型コロナウイルス感染症の現状と今後に向けての課題

設置責任者：椎名 貴彦（岐阜大学、新型コロナウイルス感染症研究委員会）

【C 3】AIの進展と企業経営・働き方

設置責任者：黒田 兼一・米田貢（東京支部）

【C 4】高齢者福祉の現状とこれからー介護福祉学への展望

設置責任者：藤本 文朗（京都支部）

D 科学・技術の現状批判と課題

【D 1】科学技術の現状批判ー日本の科学・技術の健全な発展のための課題 part16

設置責任者：久志本俊弘（大阪支部）、矢作英夫（東京支部）、長田好弘（東京支部）

【D 2】科学・技術サロンー日本の科学・技術の現状とロマンを語る part 17ー

設置責任者：長田 好弘・松永 光司（東京支部武蔵野通研分会）

【D 3】自然科学の進展を俯瞰する III

設置責任者：青木 和光（東京支部）

E 学術研究体制の危機と大学・研究機関、研究者の権利・社会的責任

【E 1】いま改めて研究者の権利・地位と倫理を考える

設置責任者：原田 英美子（滋賀支部、滋賀県立大学）、丹生 淳郷（埼玉支部）

【E 2】高等教育政策の現状分析とその改革の方向性

設置責任者：石井 潔（静岡支部）

【E 3】高等教育「無償化」の現在地ー誰もが安心して学び続けられる社会に

設置責任者：河 かおる・杉浦 由香里（滋賀支部）

F 個人の尊厳、ジェンダー平等、多様性の尊重

【F 1】フェミニスト・エスニック・スタディーズと DEI（Diversity, Equity, and Inclusion）：平和に
必須の多様性と公平性と包摂

設置責任者：鄭 幸子（岡山大学グローバル・ディスカバリー・プログラム、JSA 女性委員会）

【F 2】不登校・社会的ひきこもり

設置責任者：伊田 勝憲・近藤 真理子（京都支部）

【F 3】学習権を問う～様々な学びからの検討

設置責任者：近藤 真理子（京都支部 太成学院大学）

G 市民社会その他

【G 1】市民と科学者を結ぶ雑誌『日本の科学者』の歴史的役割と展望

設置責任者：『日本の科学者』第 60 期編集委員長

【G 2】二次元から「世相」をつむぐ

設置責任者：西田 喜一（京都支部）

【G 3】転換期の主体としての地域、地域住民を考える～その自由な学習と個性、主体性のあり方を
問う

設置責任者：渡辺 顕治（個人会員）、亀山 孝二（東京支部／個人会員）

【G 4】アメリカの現状と今後を考える

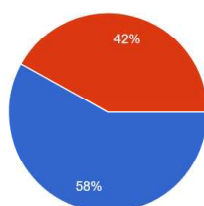
設置責任者：本田 浩邦（獨協大学）

3. 参加者の動向

（1）参加登録状況

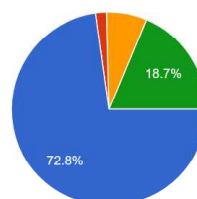
578名

会員・非会員
610 件の回答



一般・大学院生・学生
610 件の回答

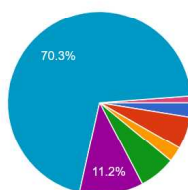
● 会員
● 非会員



● 一般
● 大学院生
● 学生
● その他

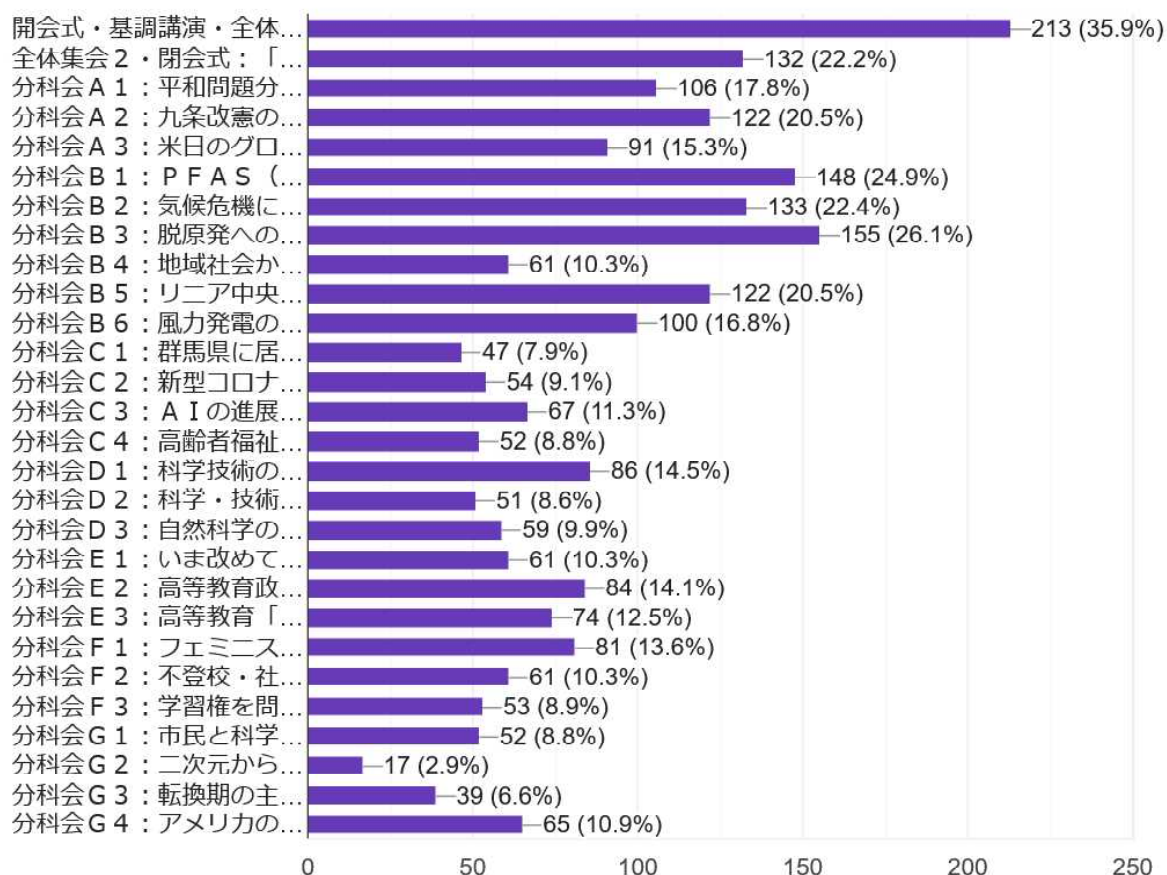
年齢（回答は任意です。大まかな参加者の分布を知るためにお伺いするもの
です。）

596 件の回答



● 10歳代
● 20歳代
● 30歳代
● 40歳代
● 50歳代
● 60歳以上
● 答えたくない

(2) 分科会申込み状況



※参加実績はいずれもそれぞれ約半分

(3) この研究集会をどこで知ったか



(4) さまざまな意見・質問

- 印刷したサーキュラーは発行されますか？
- 貴重な集会をご開催賜り、心より感謝申し上げます。勉強させて頂くことを楽しみに致しております。
- 頑張ってください。非会員の方にJSAへのお誘いを忘れずに！
- 事務局の皆様には大変お世話になります。
- 募金として3000円を10月8日に、郵貯から振り込みましたので、ご確認ください。
- 予稿集お願いします。
- (複数人での視聴を計画中です)
- 弁護士の北村と申します。三重大の前田定孝先生から教えて頂きました。応援しています。がんばって下さい。
- オンラインに不慣れです。
- 当日は朝の自宅にて会議に参加します。
- 非会員ですがよろしくお願いします
- 風力発電に関心がありますが、開催日の11月30日は、抜けられない用があり、参加はできません。pdfを見て、参考にします。
- B4分科会は金沢市内に現地会場を設け、オンラインで結ぶハイブリッド方式の開催となります。会場参加を希望される方には、その情報を伝えたいと思います。
- JSAのPFAS問題についての見解を知りたい。
- 「日本の科学者」2024年11月号を入手したいのですが、どこへ連絡したらいいのでしょうか？
- PFAS問題に関わり始めているので情報聞きたい／トランプ政権が復活したことが全世界の気候危機に対するさまざまな活動を苦境に追い込むのでは、と空恐ろしくなっています
- 社会科学の研究者です。このようにオンラインで無料参加できるのは大変ありがたいです。これからもお続けいただけますと幸いです。
- この国内外の問題を、引き起こしているのが、人間であることを、残念に思います！
 - これだけ多くの学者・研究者・一般人が支持しているのに、政治は依然として後ろ向きです。政治家にも知恵をつけて、国のあり方を変えてゆきたい。
- 北陸新幹線小浜ルートの抱える問題の検討
- 既に申し込んだのですが、参加者登録名簿になまえがありませんでしたので、もう一度申し込みました。
- 10月末に本ページから参加申込みをしました但返信がなく、再度申し込むも返信がありませんでした(hotmailで)。分科会関心一覧表にも名前がないので、受付られていないと分かりました。再再度申し込みます。(前2回はEdge,今回はGoogleChromeを用いました)
- 以前に申し込んだつもりでいましたが、その後の連絡がないので申し込みします。
- Ideally, I would like for there to be a session in English.
- 将来的に、英語や多言語でのセッションをしていただければ大変ありがたいです。
- 印刷機が使えないので困ってます。
- 後日印刷されるのですか？(回答:印刷の予定はありません)
- 科学者の声を政策に生かせる政治になって欲しいです。活動をありがとうございます。
- 「申し込み」期限が過ぎてしまいましたが、参加許可いただければ幸いです。
- 手続きでこまっています。はやくきかせてください。

4. まとめ

今回は東海地区で、愛知、静岡、岐阜、そして三重の各支部から実行委員を募ってとりくみました。今年1月に第1回目の実行委員会を開催して以来、「他支部・地区もすなる総学というもの、東海地区もしてみんとするなり」とばかりに、前回である第24回総合学術研究集会の資料をたどりながらとりくみました。ご指導いただいた当時の左近事務局長、そして前回の実行委員長でもあり、今回は副実行委員長をつとめていただ畑研究企画部長には心から感謝します。

今回 Zoom による遠隔方式で開催された各分科会の特徴は、なんといってもその参加のしやすさにあったものと思われます。さまざまな学会等でも参加申込者農地に実際に参加する人数は、約半分であるといわれているようですが、今回もご他聞にもれず、参加予定者 100 を超す分科会が 8 も生まれました。Zoom には 100 人を限度とするものと 300 人まで入れるものとあるようですが、中には、同じ時間に 100 人を越えたものが複数出てきたために、緊急に 300 人 Zoom として契約を変更したものもあります。このことは、従来よりも幅広い市民が参加できるようになったことも意味しているのではないかと考えます。そのことは、日本科学者会議がさらに多くの市民とのつながりを強化しうることとも意味していると思われます。そしてそのさらに先には、現在さまざまな困難を抱える日本科学者会議の方向性も示しているのではないかと思います。

今回の Zoom での配信は、静岡支部の水谷洋一さんの指揮のもと、井上さんと片川くんという2名の静大生のみなさんが、静岡大学の共通教育のある部屋を作戦本部として3アカウントの Zoom を監視するべく初日からはり付いて、きわめてタイトな時間配分のなかで、運営にご協力いただきました。この経験が、彼らの今後の人生に有意義なものとなることを願いつつ期待しています。

これから実行委員会は、今回の予稿を1冊の予稿集にまとめるとともに、総括に入っていきます。分科会責任者のみなさんには、分科会報告書をご提出いただければと思います。その内容等も参考にしつつ、次回以降の総合学術研究集会がさらに充実したものとなるべく、最後の務めを果たしていきたいと思います。

それではみなさん、2年後になるとと思いますが、第26回総合学術研究集会で、またお会いしましょう